

学校施設の更なる活用と地域プールの見直しに係る基本方針（案） に対する意見交換会開催結果

1 開催概要

	開催日時	場所	参加者数
1	平成28年11月26日（土）午前10時	白糸台文化センター 講堂	0名
2	11月26日（土）午後2時	西府文化センター 会議室	0名
3	12月 1日（木）午後7時	中央文化センター 第2講堂	2名
		計3か所	延べ2名

2 参加者からの主な質問・意見及び市の説明（意見のみの場合などは市の説明欄は斜線で表記）

	場所	参加者からの質問及び意見	市の説明
1	中央文化センター	今回の意見交換会の参加者が昨年度に比べて少ないのは、2つ理由が考えられる。1つは市民が市のやり方に任せようと判断したからで、もう1つは、プールは文化センターなどと違って、日常的に使用する施設ではないので、残念ながらあまり関心が無いからだろう。	/
2	中央文化センター	市の収入が減る要因として、生産年齢人口の減少に伴う市税収入の減少があると思うが、競艇事業の収入減など、それ以外に考えられるものはあるか。	確かに、平和島競艇場の売り上げはピーク時に比べると下がっている。ピーク時の平成2年度には、競走事業の収益金から、一般会計等8年間168億円の繰出金があったが、最近は良くて5億円程度である。 市の公共施設が充実している背景には、競艇事業からの収益金等を活用することで、市民の日常生活に大きな影響を与えず整備することができた、ということもある。

	場所	参加者からの質問及び意見	市の説明
3	中央文化センター	地方の合併市だと、プールなどは、合併前の自治体がそれぞれで持っていたものを1つに絞ることで、利用者が集中するという事も聞く。府中市でも今後数を減らすだけではなく、民間も活用して、安全面やサービス面の向上が図られれば市民も納得するのでないか。 学校プールを開放するのであれば、上手く民間などに運営を委託してできれば良いと思う。	プールは、遊びを目的とした利用者が多いが、泳ぎの練習を目的とした方もいる。今後は、新しい活用方法も含めて、プールについて検討していきたい。 また、他の自治体では、学校にはプールを整備せず、授業はスポーツクラブのプールで、プロの指導員が行う例や、市内の公共プールを廃止して、民間プールの利用助成を行うという例がある。プールに対するニーズが変わってきている。
4	中央文化センター	民間のプールを使った方が安いのか。	市のプール事業で利用者1人当たりにかかるコスト(税金で負担している額)は、約1,500円である。民間プールの利用料金は、2,000円くらいだが、これには営利分が加わっていると考えると、利用者1人当たりのコストは、民間と公共で同じくらいの負担であるということが分かる。
5	中央文化センター	税収入が多かった時代やバブル期に多くのプールを整備したツケが集中的に来ているのか。	プール整備は、バブル期よりも前に終えている。 利用者の減少という面では、ピーク時の2、3年後には、主な利用者である子どもの利用が4割程度、減少している。その頃は、テレビゲームがブームになっており、子どもの遊び方が大きく変わったことも利用者減少の要因かもしれない。
6	中央文化センター	プールというのは授業の一環として行われていると思うが、それもあまり機能しなくなっているのか。	学校のプール自体は変わらず教育機能としての役割を果たしているが、地域プールで遊んでいた子どもたちの遊び方が変わった。また、夏休み中の学校プールも、今は一部の期間のみプール授業を行っているので、プール授業を行わない期間は、一般に開放できるのではないかとというのが、今回の案の考え方の1つである。

	場所	参加者からの質問及び意見	市の説明
7	中央文化センター	水中でのウォーキングや体操は、高齢者の健康に良い。一般開放することは、衛生面では色々大変だと思うが、地域貢献という面では、大変役に立つと思う。 概ね市の考え方は、良いと思う。ただ、今の地域プールや学校プールは屋外プールなので夏以外は使えない。	学校プールの更新に当たっては、今後の活用方法も含めて検討していきたい。
8	中央文化センター	極端な話、プールは無くても良いのではないかと。一方で、地域に近い学校の教室は、使い道が非常に多い。セキュリティについては考えなければならないが、学校が文化センターの様に市民活動の場として使えるようになれば良い。 工作室などは十分活用できるのではないかと。また、学校の図書室を使えることになれば、利用したい人はいるだろう。	学校には、音楽室や工作室など色々な部屋があるので、様々な活用の可能性はある。 自治体によっては、図書室の開放を行っている所もある。学校の図書室には司書教諭などがいるので、一般の方の立ち入りエリアを定めただけで物理的な壁などは設けず運用している例もある。 今まで、学校と学校以外の施設を一緒にする必要性についての議論はなかった。しかし、いずれ学校には空きスペースが生じる。また、他の施設も老朽化し、対応が必要になる。その際に、同規模で建て替えるのか、縮小し、不足分は学校施設で補完するのか、新しい考え方が求められる。
9	中央文化センター	10年、20年先を考えると学校開放や他施設との複合化という考え方は必要で、今でも学校開放の需要はある。学校施設を市民も使えるというのは、大変良いことだと思う。	
10	中央文化センター	校舎内の教室の活用事例は、あまり聞いたことがないが、やはりセキュリティ面がネックになっているのだろう。しかし、今後は、空いた教室をスタジオや音楽室、会議室等として改修し、市民に開放すると面白いのではないかと。児童や保護者に対して授業を行ったり、展示会や地域のイベント等を行うと、地域とのつながりもできる。	

	場所	参加者からの質問及び意見	市の説明
1 1	中央文化センター	子どもの預かり等を学校で行うことで、地域にいる保育士の新たな雇用の場の創出にもつながるかもしれない。	
1 2	中央文化センター	教育委員会との関係はどうなのか。	教育委員会では、学校の老朽化を非常に大きな課題として捉え、建替えに当たって必要な教育機能について検討している。今回の基本方針では、必要な教育機能を満たすために面積が増加することはやむを得ないことかもしれないが、将来の過度な負担としないためにも、増加分について、公共施設マネジメントの視点を取り入れ、将来的な活用も踏まえた上で、建替え等を行うことが必要であるという考えを示している。
1 3	中央文化センター	公共だからということにこだわらず、企業のカも取り込める部分は積極的に取り込んでいくべきである。	
1 4	中央文化センター	学校施設の整備は、ソフトの事も考えて取組を進めてほしい。あまり専門化したものではなく、もう少し幅広い形で整備して行ってほしい。	